

生徒の“志”を育む教材の開発

元広島県立広島工業高等学校校長 瀬崎 宣利

1. はじめに

私が生徒の志を育む教育が必要と考えるに至ったのには教師人生への深い反省がある。

一昨年、新任教師として初めて担任をしたクラスの同窓会に招かれた。

当時、私は生徒を成長させたいとの一念で教育活動に当り、資格取得においても放課後遅くまで指導をした。資格のレベルが高くなるにつれギブアップしそうになる生徒もいたが、合格まで辿り着くと「やればできる」と自己肯定感を身につけた。

同窓生は資格試験の学習成果よりも、この経験が職場で大変役立ったと話してくれた。

しかし、その後の話の中で、「卒業してからの人生を振り返ってみると、知識や技術も大事であるが、もっと人としての生き方や将来展望などについて教えてほしかった。先生は若くて社会経験や人脈も少なく、社会人としての生き方など経験に基づく指導については正直わからなかったと思う。しかし、卒業後すぐに就職する生徒が多い工業高校においてはこのことは非常に大切である」と話してくれた。

2. 志を描くプロセスの変革

人は一人では生きていくことはできず、相互依存の共同体、すなわち社会の中で生きている。従って、個人として生きながら、社会的役割を担っている。そのことをしっかり自覚し、将来目指すべきものを心の中に持つのが“志”である。

志を育む中核はキャリア教育であり、それは人間としての在り方、生き方を考え、その具体化の柱として職業を考えていくことである。

生徒が職業を考えるプロセスとしては次の二つがある。

まず一つは、学習や経験を通して自分と向き合い、得意分野を理解し、それを生かせる職業を選択する方法である。

しかし、生徒が積みあげた学習・見聞・体験は人生という枠で考えると本当に小さく、それを基にしての将来展望は限られている。

また、自己理解を深めることに重きを置き過ぎると自意識が過剰になり、自由度を失い、将来に対しての不安や防御的な心が強くなり、今の力でほどほどにできることで満足という考えから、将来への大きな志を描くことができない。

志を描くもう一つの方法は、例えば、家業を継ぐことにしたとか、地震で被災し辛い思いをしたので将来は防災に役立つ技術者になりたいとか、

先ず目指す職業を決め、その実現のために必要なことを今後の努力で身につけていこうという方法である。

志が決まると、その実現のため今何をすべきかが見え、苦しいこと嫌いなこともやらざるを得ないと覚悟を決めて頑張ることができる。

また、幸せな人生を送っている多くの人が、偶然の出来事や出会いによって今の職業に導かれたと話されている事例等も紹介しながら、先に職業を決めても志がしっかりしていれば将来を切り拓けることを指導することが重要である。

3. 志を育む教育内容

(1) 能力の肯定的自己概念の形成

生徒の多くは将来の志を描けたとしても、その基盤となる能力が自分には備わっているのかと不安を持ち、志への一歩が踏み出せない。その壁を打破するためには、人間の才能について科学的に理解させ、自分には志を実現する才能があることを確信させなければならない。

人間の才能には二つある。一つは生まれつき持っている資質、天資であり、そしてもう一つは、生まれて以降の活動によって身につける資質、後天である。天資が志実現の決定的な才能となるのはまれであり、多くの場合後天によって志を達成できる。

私たちが日常的に生活や仕事で使っている能力は、持っている能力からすると氷山の一角で、人間の能力は必要を感じ潜在能力への刺激、すなわち獲得への努力によって引き出すことができるということである。

(2) グローバル&フューチャーの視点

生徒が生涯を通しての志を具体的に描くには、自分が活躍する数十年先の社会を予測し、そこで自分がどのような役割を果たしていくのかビジョンを明確にすることが大切である。

しかし、生徒が活躍する時代は現在の社会と相当変化していくと考えられ、しっかりと予測しておかなければ志の前提条件が崩れてしまう。

まず一つは社会のグローバル化である。今日、情報通信技術の発展等によって政治・経済・文化・環境など社会活動のすべてにおいて国境を越え、ヒト、モノ、カネが動く時代を迎えており、生徒にはグローバルな視点で思考し、課題に向き合う力が求められている。

二つ目は、我が国の少子高齢化とそれに伴う人口減少社会である。

このことでこれまで豊かな労働力と勤勉さで

発展してきた経済活動は縮小に向かう。この傾向をイノベーション等によって抑制しながら、国民の安心を支える福祉の充実や、地方の衰退による自治体崩壊、地域間格差の拡大という大きな課題を克服していかなければならない。

我が国の人口等の変遷

	1947年 (昭和22年)	2014年 (平成26年)	2050年 予測
人口	7,800万人	1億2,695万人	9,707万人
出生数	268万人	102万人	56万人
合計特殊出生数	4.54人	1.39人	1.35人
65歳以上の人口比率	4.9%	26.1%	38.8%

(3) 先人の生き方に学ぶ

「本気になって、真剣に志を立てよう。強い志があれば事は半ば達せられたと言ってもよい」(松下幸之助) こうした名言のように、時代が変わっても、また目指すものが異なっても後世に名を残した人の多くが、幸せな人生、すなわち自分の能力を生かして社会に貢献していくには、志を持つことが最も大切であることを指摘している。

このような偉人の生き方に感動を覚えさせ、憧れを持たせることは生徒の志育成には欠かせない。

そして、もう一つ大事なことは、生徒が平素の生活の中で身近に接する先輩の考えや行動に関心を持ち、客観的に評価し、尊敬する人を心を持つことである。そのことで、生徒が志について悩んだ時、尊敬するあの人だったらどのように考えるだろうかと、心の中で考えの擦り合わせをすることができ、自分独りの主観的な考えを他者の考えを取り入れた客観的なものにでき、自信につながる。

4. 志を育む心理学的アプローチとエクササイズ

志を育てる方法はいくつか存在するが、ここではサイコエデュケーションを紹介する。

サイコエデュケーションは、「育てるカウンセリング」の一形態で「心理教育」つまり、心の教育である。この方法は能動的であり、教えるという色彩が大変強い心理学的手法である。教える中で、感じ取らせ、気付かせ、思考(認知、受け取り方、考え方、価値観、ビリーフなど)、行動(人に物を頼む、断る、人を助けるなど)、感情(感謝の気持ち、意欲、思いやり、察すること等)を育てる。

エクササイズでは志を持った人物の生き方に接し、その人物の心に近づくため、その人物の立場を第三人称「どこか見知らぬ人」から、第一人称「自分がその人物であったら」、第二人称「その人物が自分の大切な人であったら」へと変化させている。その人物が二人称、つまり大切な人とすると仮定して考えると、人は自分のこととして

考える以上にその人物を思う強い感情を引き出すことができ、この特別な感情は共感へと繋がり、それに自分の生き方を重ね合わせ、自らの志を導き出すことができる。

5. 授業実践例

実施校；広島県立広島工業高等学校建築科
題材は堀場製作所名誉顧問、堀場雅夫氏の講演「おもしろおかしく」(第23回工業教育全国研究大会での記念講演)を取り上げ、立派な企業経営者の生き方に学びながら、自らの志を導き出すことを狙いとした。

題材の内容要旨

- (1) 堀場製作所名誉顧問 堀場雅夫氏の経歴
- (2) 堀場製作所の概要

昭和20年に堀場雅夫氏が学生ベンチャーとして創業。現在では自動車の排ガス測定器で世界シェア80%をしめる。従業員1,400人、年間売上高520億円の企業。

- (3) 講演内容の一部

・ベンチャー企業当時、開発した病気治療用の気体成分分析装置を病院へ売りに行く時、商品の性能の良さは認めてくれるが、会社への信頼感がないため買ってくれなかった。ところが、この装置を応用して自動車の排ガス測定器を開発すると世界の自動車メーカーが買ってくれるようになった。

・日本でベンチャー企業が生まれにくいのは、日本人はウキウキするような面白いことがあっても行動に移さないという遺伝子的なこともある。しかし、それが決定的なものではなく、生まれてからの経験、とりわけ学校教育等によって能力を育てることができる。

・大企業に比べて中小企業は仕事のスピードが速いなど優位性がたくさんあり、それを生かして大企業から仕事を受注することができた。

・仕事が面白いと効率が上がり、良い商品ができ、新しい発想も生まれる。これは会社にとっても働く人にとっても最高ではないかと思ひ、社是を「おもしろ おかしく」にした。

エクササイズ

堀場氏の経歴・講演要旨を読んで次の設問に対するあなたの思いを書いてください。

設問—3

もし、堀場氏があなたの親とか大切な人であったら、あなたはどのようにして会社を発展させますか。

生徒の答えの例

- ・会社の発展につながる情報を集め、自分の意見を率直に伝え、社長の判断に役立てる。
- ・堀場氏から経営を学びベンチャー企業を立ち上げ、海外進出の一翼を担いたい。

担当教師のまとめ

日頃、ホームルーム活動等において生徒の将来の生き方について参考になる話はしているが、良い話と受け止めるもなかなか心に響かない。

この度のように、具体的な人の生き方、考え方を教材として準備し、時間をかけて読ませ、その後のエクササイズによって能動的にその人の心に近づき、生き方に共感することができれば心に強く残り、行動変容に繋がる。